

【資料11①】「栽培から様々な取り組みへ」
～ゴミってゴミじゃない～ 4、5歳児

4月

やってみたいから始まる活動

昨年度、保育士が一方的に栽培活動を進めるのでなく、子どもたちとの話し合いを重ね、畑を作り栽培活動で育てた野菜を食べる。

また八百屋さんごっこに発展した経験。

(過去：どう過ごしてきたのか考慮)

過去の経験から今年度も畑をしたい。

(現在：今をイキイキと幸せなものとなるように配慮)

今年も栽培に取り組むことで、新たな問いが生まれ学びにつながっていく期待。(未来：未来に何を育てたいのか発達の方角を見通す)

昨年度、栽培活動を
経験したことで、今年
も畑作りに...

畑整備も子ども
たちと保育士で...

話し合
いから「畑のトンネルにしてみ
ようよ!」

話しあい・目的の共有・協力

育てたいのかではなく、食べたいものを育てて
やってみたいことを出し合う

苗ではな
く、全てタネか
ら、お米は玄米か
ら発芽させる

お米ってお米から
できるんだ!

土って作れないの?

土って作れないの?という問いを保育
士が拾い、専門家の力を借りてコンポスト作り。
微生物のことを知り、生ごみが土になっていくこ
とに興味を持ち、毎日の仕事に。

ゴミが土になるの?

ゴミってゴミじゃない!

起点

皮はコンポストには使えない。
皮は何に使えるの?

起点
ジュース作りたい!

保育士が梅ジュースを提案
子どもたちで梅を付け梅の
変化を楽しむ。
梅ジュース屋さんやろう!
から保護者に飲んでもら
う。

起点
ママにも食べてほし
い!

保護者にも食べてもらいた
い子どもの声から、毎日の
収穫で採れた野菜を玄関で
販売する。

皮はコンポストに入れても
分解されないことを知り、
皮は何に使えるの?という
子どもの声から、保育士の
提案で、草木染め。

皮もゴミじゃないね!

考察

昨年度の楽しかった取り組み(栽培したものを八百屋さんごっこで販売・栽培したものを食べるなど)を今年度も取り入れたい子どもの声から、過去をどう過ごしてきたかを考慮して、保育を考えていく必要を改めて感じた。子どもたちにとっては、昨年度、今年度という境目を意識することはない。保育士の意向を計画的に取り入れることも大事ではあるが、どう過ごしてきたのかを大事にしたことで、昨年度よりも活動から枝分かれしていった印象がある。

コンポスト作りでは、専門家にアプローチしたことで、土の仕組みを知るだけでなく、実際に土に触る、野菜が分解されていく過程を見て感じる、皮は分解されないけど用途はあるなどの経験から「ゴミってゴミじゃない」という子どもの声があった。この経験はとても本当の意味での知る豊かな経験であったと感じる。野菜販売所や梅ジュース作りでは、子どもたちが実際に手を加え当事者としての意識があったことで「食べてほしい」という強い思いがあった。子どもたちで話し合う機会を多く設けてきたことで、他者の考えに触れ、時間はかかっても、活動の展開が広がったと考えられる。また保育士が活動のめあてを決めて、そこに向かって進めていくのではなく、子どもの姿をみると、話し合いを大事にする、そんなことが子どもの内から出てくる本当の「やってみたい」ことの実現に向かうのではないかと考える。